



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済：石油関連

(10月29日～11月1日付現地報道)

1. 日本の米国制裁免除要請 (31日付ケイハーン・インターナショナル紙)

10月27日付日経新聞は、新たに提案されている米国制裁の免除を日本が求めていると報じている。10月11日、城島財務大臣はガイトナー米財務長官に同要請を行った。

2. 日本によるイラン産原油輸入量 (1日付ケイハーン・インターナショナル紙)

日本の経済産業省の報告によれば、米国による制裁にもかかわらず、9月の日本によるイラン産原油輸入量は、前月比79%増の日量18.7万バレルであった。

3. ガソリン生産量の増加 (31日付イラン・デイリー紙)

イラン石油省のアリーレザー・ゼイガミー (Alireza Zeighami) 副大臣は、現在5,500万リットルのガソリン生産量を本年末までに6,300万リットルに増加させると述べた。

4. スリランカの製油所の操業停止 (29日付テヘラン・タイムズ紙)

スリランカのサブガスカンダ (Sapugaskanda) 製油所は、米国の対イラン制裁によりイラン産原油を輸入できず、操業停止に追い込まれたと、スリランカ石油省のプレムジャヤンサ (Susil Premjayantha) 大臣が述べた。

5. 独国の対イラン貿易と銀行決済 (1日付イラン紙)

(イラン紙はイスラエルの新聞を引用して) 独国の対イラン貿易は昨年とほぼ変わらず40億ドルであるとし、米国の制裁を無視して独国の銀行は複数回にわたり、インドの対イラン石油代金支払いを仲介した。

6. 非石油部門の輸出額 (31日付イラン・デイリー紙)

イランの非石油部門の本年 [イラン暦1391年 (2012年3月20日～2013年3月20日)] 上半期 (3月20日～10月21日) の輸出額は210億米ドルに達したと、貿易促進機構のケルマーンシャーヒー副長官が述べた。同長官は、年間の非石油部門の輸出は500億ドルに達する見込みだとし、非石油部門の輸出は30%の伸びを示し、対イラン制裁が特別な機会を提供しており、輸入は260億ドルであるとした (注：非石油部門の輸出には、石油化学製品やコンデンセートが含まれている)。